

## シンガポールのハラール戦略

碓 知子

すっかり日本でもおなじみになった「ハラール」。イスラム市場に食品を売り込むには欠かせないといわれています。先日、シンガポール日本商工会議所主催のセミナーで、ハラール市場に詳しい「ハラール・メディア・ジャパン社」の講演に出席したのでご紹介します。

### <ハラールフレンドリーNO.1の非イスラム国>

マレー系が人口の13%というシンガポール。ハラール食品のことは大抵の人が常識として知っているわけですが、町中ハラール食品ばかり、というわけではありませんでした。しかし、世界的なハラール市場の拡大、イスラム諸国からの観光客誘致などを背景に、ハラール認証を取得した店舗の数は2010年の533軒から2016年には4,016軒に拡大。

現在では日本食店でもハラール認証を取得するところが出てきています。回転すしチェーン大手のさかえ寿司が、ハラール認証寿司チェーン、ヘイ寿司を開設。フランチャイズ契約で中国やマレーシアにも展開している他、本格的な懐石料理店、「三太郎」もハラール認証を取得しました。こうした取り組みもあり、シンガポールは非イスラム国では最もハラールフレンドリーな国にランキングされています。

### <ハラールビジネスの可能性>

ハラール食材企業のビジネスも伸びています。国内市場が小さいシンガポールは、輸出市場の開拓がカギ。ハラールの食肉、ソーセージなどの肉加工品製造のEllaziq社ではブルネイ、ミャンマー、インド、オーストラリアに輸出している他、今後は日本、マレーシア、中東にも販路を拡大したいとしています<sup>1</sup>。シンガポールからのイスラム諸国への輸出に強い味方となるのが、ハラール認証の相互認証です。シンガポールは湾岸諸国と自由貿易協定を締結していますが、その中にシンガポール・イスラム教評議会(MUIS)が発行するハラール認証とGCC(湾岸協力理事会)諸国のハラール認証を相互に認め合うという項目が入っているのです。アセアン諸国のブルネイ、マレーシア、インドネシアとも相互認証されています。

日本は人口も減少し、国内市場が縮小する中、輸出に活路を求める企業はますます増えていくでしょう。また、訪日するムスリム観光客が増えれば、日本国内でのハラール食品の市場も拡大が見込まれます。そうした中、ハラール認証取得をするのも1つの手段ですが、例えば認証取得済みのシンガポール企業への委託生産、輸入なども検討の余地があるでしょう。

### <認証は印籠ならず>

最後に、シンガポールとは直接関係ありませんが、セミナーでお聞きした話をシェアします。認証の話を書いてきましたが、実は、ハラール認証はイスラム教徒にとっては、認証は「ハラールかどうか」と判断する上での一助に過ぎません。つまり、ハラール認証をとってなくても、イスラム教徒の人が「これは大丈夫」と判断すれば食べるし、ハラール認証をとっていても「これは信用できない」と思えば食べません。ムスリムの人たちはハラールかどうかは自ら判断しているわけで、ハラール認証マークは印籠にはならないのです。セミナーでは認証のコストを考えて、判断したほうがよいとのアドバイスがありました。

日本では、まだまだハラールのハードルは高いかもしれませんが、2014年に「食」を中心として始まった「ハラール・エキスポ展示会」も今年は11月21-23日に浅草で、「食、インバウンド、ファッション、ムスリム人材等」、多分野のテーマにまたがり開催されるようです。ハラール取組のスタートとして良い情報収集の場かもしれません。 <https://halalexpo.jp/>

<sup>1</sup> Business Times Singapore, 18 January 2016,